

降臨節第3主日 ルカ3章7―18節

【直訳】

7そこで彼は言っていた 出て来ている群衆たちに 洗礼を受けるために 彼から、

蝮の子らよ、誰が 指示した あなたがたに 逃れることを 来ようとしている怒りから。

8そこであなたがたは作りなさい 悔い改めにふさわしい実を

そして あなたがたは始めるな 言うことを 自分自身に、

父を 私たちは持っている アブラハムを。

なぜなら私は言う あなたがたに 次のことを

できる 神は これらの石から 起こすことが 子たちを アブラハムに。

9だがまたすでに 斧が 木々の根のもとに 置かれている。

そこでの木も 作らない 良い実を 切り倒される

そして 火の中へ 投げられる。

10そして **尋ねていた** 彼に 群衆たちは 言いながら、

「それでは何を 私たちは行うべきか」

11だが答えて 彼は言っていた 彼らに、

「二枚の下着を持つ者は 分け与えなさい 持たない者に、

そして 食べ物を持つ者は 同様に 行いなさい」

12だが来た 徴税人たちもまた 洗礼を受けるために

そして 彼らは言った 彼に向けて、

「先生 何を 私たちは行うべきか」

13だが彼は 言った 彼らに向けて、

「何も より多くのものを あなたがたに命じられたもの以上に

あなたがたは取り立てるな」

14だが**尋ねていた** 彼に 兵役についている者たちもまた

言いながら、

「何を 行うべきか 私たちもまた」

そして 彼は言った 彼らに、

「誰をも あなたがたはゆるするな

また あなたがたは偽って告発するな

そして あなたがたは満足しなさい あなたがたの給料に」

15だが待ち望んでいて

**民は**

そして 考えていて 皆が 彼らの心において ヨハネについて、

もしかしたら 彼は キリストでは

- 16 答えた 言いながら すべての者に ヨハネは、  
「私は 確かに 水で 洗礼を授ける あなたがたに、  
だが来る もっと力のある方が 私より、  
その方の 私は適していない解くのに その履物の紐を  
彼は あなたがたに 洗礼を授けるだろう 聖なる霊と火において、  
17 その方の 箕が 彼の手において  
完全にきれいにするために 彼の脱穀場を  
そして 集めるために 麦を 彼の倉の中へ、  
だが 殻を 彼は焼き尽くすだろう 消せない火で」。  
18 またそこで多くのことを そして 他のことを 勧めながら  
彼は福音を宣べ伝えていた 民に。

〔新共同訳〕

- 7 そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。8 悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起すな。言っておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことができになる。9 斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」10 そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。11 ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えた。12 徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。13 ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。14 兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。
- 15 民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。16 そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。17 そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」18 ヨハネは、ほかにもさまざまな勧めをして、民衆に福音を告げ知らせた。

①構成

② 7—9節

⑦ 洗礼者ヨハネは「蝮の子らよ、誰があなたがたに指示したのか、来ようとしている怒りから逃れることを」と述べて、神の裁きを告知する。終わりの時が迫った今、ヨハネは「悔い改めにふさわしい実を結べ」と命じる。

⑧ 8節の「悔い改めにふさわしい実」と9節の「良い実」は対応している。アブラハムの子孫

であるから救われるという考えを捨てて、悔い改めを表す行動として「良い実」を結ぶことがなければ、裁きが迫る。

⑥ 10―14節

⑦ 10節の群衆の質問は「それでは」で始まっている。この語が示すように、群衆たちが洗礼者ヨハネに質問しようと思ったきっかけは、9節以前の洗礼者ヨハネの説教にある。この説教に引きつけられた「群衆、徴税人、兵役についている者たち」が、彼のもとに来て尋ねる。

⑧ 直訳で「私たちは行くべきか」と訳したのは、この動詞形が一人称複数形だからである。原文に「私たちは」にあたる語が用いられているのではない。しかし、兵役についた者たちの質問では「行くべきか」という一人称複数形のほかに、「私たちもまた」が加えられている。これは強調である。この強調は「私たちのような者であっても」といったニュアンスで使われている。とすれば、彼らは自分たちの日頃の行動に後ろめたさがあり、このような「私たちも」悔い改めの可能性があるかどうか聞いているのだろう。

⑨ この段落は10節と14節の「尋ねていた」で囲い込まれている。

⑩ 15―18節

⑪ この段落は15節と18節結びの「民」によって囲い込まれている。この「民」の特徴は、15節にあるように、「(メシアを) 待ち望んでいる」ことにある。

⑫ この「待ち望んでいる民」に洗礼者ヨハネは16―17節で、彼よりも「もっと力のある方(メシア)」を紹介する。その方は「聖なる霊と火において」洗礼を授けるだろう。

⑬ 悔い改めにふさわしい実(7―9節)

⑭ アブラハムはユダヤ人が最も尊敬する父祖である。それは自分たちが神によって選ばれた民であることのしるしであった。「私たちには父としてアブラハムがいる」と考える彼らは、「来ようとしている怒り」から逃れることができると考えている。「神は右からアブラハムの子を起こすことができる」のであり、救いに関して血筋は何の役にも立たない。

⑮ 「悔い改め」とは、生きる方向を変えて神と向き合うことを意味する。ここでの「実」は複数形であるので、悔い改めを示す洗礼を指すのではなく、生活の中で悔い改めを示す具体的な行動を意味している(10―14節)。

⑯ 尋ねる群衆(10―14節)

⑰ 7―9節で、洗礼者ヨハネは厳しい裁きの言葉を告げて群衆に悔い改めを迫っている。これに応答し、真の救いにあずかりたいと願った群衆や徴税人や兵士たちが、次々と洗礼者ヨハネのもとに来て「尋ねていた」(動作の反復や継続を表す未完了過去形)。彼らの問いは真剣なものであるが、この問いを引き起こしたのは裁きの告知である。裁きは人を嬉しくすることはしない。しかし裁きの告知によって、生き方への問いかけが生まれ、悔い改めが引き起こされるとすれば、それは恵みとなりうる。裁きと恵みとは、切り離すことができない神からの贈り物である。

⑱ 群衆や徴税人や兵士は、異口同音に「私たちは何を行うべきか」と尋ねる。自分の生き方を反省し始めた彼らは、今までの生活とは劇的に違う生活を心に描いていたかもしれない。しかし、洗礼者ヨハネの答えは、拍子抜けするほど平凡なものであった。群衆には「分け与える」ことを、

徴税人には規定額以上の税を「取り立てるな」ということを、兵士には「ゆするな、偽って告発するな、自分の給料で満足する」ことを求めている。ゆがんだ日常生活を捨て、荒野野に出て厳しい修業に入れと命じたのではなく、今の生活で出会う隣人を大切にせよと教えている。

◎信じることは必ずしも日常を捨て去ることではない。むしろ、自己中心的な生き方を捨て、来たるべき方を中心に生きることを意味している。自己中心的な姿勢を捨てる時、来るべき方を受け入れる場が作り出されることになる。

#### ④待ち望む民（15―18節）

④ 10―14節に登場した「群衆、徴税人、兵士」がこの段落では「民」として登場する。1章17節で、「洗礼者ヨハネは」準備のできた民を主のために用意する」と書かれていたように、洗礼者ヨハネによって、雑多な人々が準備のできた「民」に変えられる。ルカにとって、「民」とは救いを受け入れる準備のできた人たちのことである。

⑤ この民の特徴は「待ち望む」ことにある。何を待ち望むのか、その対象は書かれていない。書く必要がないほどに明白だからだろう。「メシアを待ち望む」と訳す新共同訳が「メシア」を補っているように、彼らが待ち望むのはメシアである。しかし、それを明記しないのは、それによってかえってメシアを待ちわびる彼らの熱心が表されるからだ。さまざまな人をひとつの「民」にまとめ上げたのは、この熱気である。

◎しかし、この「民」は洗礼者ヨハネがメシアではないかと「考えている」。そこで彼は「もっと力ある方」の登場を予告する。ヨハネは「水で」洗礼を授けるが、その方は「聖なる霊と火において」洗礼を授ける。ここでの洗礼は個々人の洗礼ではなく、この世にキリスト者というあり方を誕生させる「聖霊降臨」を指している。だから、ルカは「聖なる霊と火で」とは述べずに、「聖なる霊と火において」と述べている。ここでの「聖なる霊と火」は洗礼の手段方法ではなく、それ以上の現実を表している。

⑥ 18節は洗礼者ヨハネの活動を要約して、「勧めながら、福音を宣べ伝えていた」と述べている。「勧める」と直訳した語（パラカレオー）は「そばに呼ぶ」を意味するが、困難に遭遇している者を「そばに呼ぶ」なら、それは「励まし慰める」、あるいは「勧める」ことにつながる。洗礼者ヨハネは民を「そばに呼び、勧めを与えて、励まし慰める」ために、「私よりもっと力のある方」を指し示す。だから彼が宣べ伝えた「福音」は、イエスの到来にほかならない。

#### ⑤近くに來られる主によって生き方を変えられる

⑦ 洗礼者ヨハネは裁きが近づいていることを説き、これを聞いた群衆は悔い改めを表そうとする。ヨハネはそのような群衆を励まし、彼らを来たるべきメシアを待ち望む「民」に仕上げてゆく。洗礼者ヨハネは自分の持ち物を分け与えることを命じ、貪欲さを戒めている。このような勧めをするヨハネのことを、民衆はメシアではないかと思っていたが、ヨハネは自分よりも優れた方が来ると述べる。ヨハネがこのように勧めるのは、すぐ近くにメシアの到来が迫っているからである。主が私たちの近くに來られることが、私たちの喜びとなり、私たちの在り方を変えていく。

◎自分だけの豊かさを求めるのではなく、生活の中で隣人を大切にし、共に「メシアを待ち望む」。主が近くに來られるという知らせに励まされて生きるところに、神の民の姿がある。